

**【令和3年度第1回北杜市八ヶ岳スケートセンター管理運営委員会議事録】**

日 時：令和3年7月29日（木）午前10時00分～11時45分

場 所：北杜市役所北館大会議室

出席者：管理運営委員会委員13名

欠席者：1名

事務局：加藤教育部長、渡辺生涯学習課長、社会体育担当 藤原、相良

傍聴人：0人

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 教育部長挨拶
4. 委員及び事務局職員自己紹介
5. 会長・副会長の選出（会長：浅川幸彦委員 副会長：矢崎茂男委員が選出された）

・協議事項

- (1) スケートセンターの状況について事務局より説明する。

【質疑応答】

(委員)

資料にあるとおり、営業中断により利用者数が大幅に減少したと考えられるが、今回の冷凍装置の修繕で、しっかり営業することが出来るようになるのか。配管のパイプ等については、触れられていないが、そのままで問題ないのか。

(委員)

今回の修繕については、予算の上限が14,400万円と決められているため、市の要望も入れながら、優先順位の高いものから実施することとした。配管やリンクサイドのパイプの修繕等までを行うことは出来ない。予定されている修繕については、長いもので8カ月の工期が必要となるため、今シーズンの営業は中止となる。

(会長)

パイプ等についても、氷を作る上では一体的に修繕すべきものと考えられるため、県で再度検討していただけないか。

(委員)

3月に締結した基本協定書では、施設を安全・安心な状態にした上で無償で譲渡するとしている。上限については、現在の施設を解体し更地にした場合の費

用を基に算出されており、それ以上の支出を行うことは出来ない。

(会長)

現在、雨漏りしている箇所があるが、それについては、管理棟外壁修繕に含まれているのか。そのままというわけにはいかないと思うが。

(委員)

含まれていない。外壁修繕については、外壁の剥がれや錆への対応である。

(会長)

検討の余地はないのか。予算内であれば追加で行うことは出来るのか。

(委員)

1～11までの修繕を行うことになる。現在の指定管理者である山梨県スポーツ協会にも確認しながら、対応策を検討する。

(会長)

震度7の地震にも対応しているのか。

(委員)

平屋であるため、耐震調査の対象ではないと思われるが、確認する。

(委員)

これから通年での利用を考えていくことになるが、スケートリンク周辺の安全対策等については、配慮してもらえないのか。

(委員)

これまでも維持管理の中で対応してきているが、今後は周辺地域活性化協議会も開かれることから、安心・安全な施設となるように連携を図り、施設を引き継いでいきたい。

(委員)

再度の確認になるが、アイスパネル等の経年劣化が見られる中で、近いうちにトラブルが起こることも考えられるが、例えば新たにリースをすると、市にさらに費用負担が生じることになる。そのことについても考えておいたほうが良いのではないか。

(事務局)

施設の譲渡後の数年間は、県も継続して支援してくれるということを聞いていたので、費用負担が適正に行なわれるように、場合によっては県にお願いもしながら対応していく。

(会長)

県と市で一体となって進めていっていただきたい。

(委員)

今後は、夏場の利用も考えていくことになるが、これまではどのような管理を行ってきたか。

(委員)

シーズンオフの間には、草刈と定期的な安全点検を行ってきた。

(委員)

今回の修繕により、氷の質はどの程度保たれるようになるのか。

(委員)

修繕により氷の質はよくなるが、どの程度かはデータがないため、確認して報告するようにしたい。

(委員)

これまでは、どの程度の氷の状態になれば、滑走中止の判断を行っていたのか。南側は松の日陰になるため溶けにくく、北側が溶けやすいと認識しているが。

(委員)

基本的には、指定管理者が判断しているが、安全に周回出来ないと判断した場合に、滑走中止としている。

(委員)

これまで、利用増進のための取り組みを行ってきたと思うが、どういった取組でどのような効果があったのか。

(委員)

観光施設に貸靴券を設置したり、るるぶや東京新聞に広告を掲載したり、企業に福利厚生での利用を呼び掛けたり、ラッピングバスによる周知を行うなどの努力を行ってきたが、利用者を増加させるということは難しかった。

(委員)

これまで3カ月間の利用で5,000万円の経費が掛かってきて、経営が成り立たなかったところで、14,400万円の予算では直しきれない部分がかかなり残る上に、夏場の利用をしていくことを考えると、県が計上している予算だけでは足りないのではないか。

(委員)

基本協定書では、安心・安全な施設として譲渡することと、施設を継続させるために県も支援していくことを定めている。支援策については、今後検討していくことになるが、馬術場などほかのエリアにはない資源があるため、それらと連携して夏場にも集客を図っていききたい。県としても先行事例となるように、一体となって地域を盛り上げていきたい。

(会長)

譲渡した後も、県のサポートは必要なので、よろしくお願ひしたい。

(2) 今後の検討事項について事務局より説明する。

#### 【質疑応答】

(委員)

委員には、スケート関係者とスポーツ関係者が多くなっているが、管理運営については、ここだけで検討するのか。

(事務局)

通年での施設利用を検討するため、このような構成になっている。スケートセンターだけではなく、周辺施設を含めた全体的な活性化については、政策推進課が事務局となる周辺地域活性化協議会で検討する。

(会長)

経営状況、お金が絡む部分の検証については、どう考えているか。

(事務局)

本委員会の設置要綱では、委員数を15人以内としており、現在は14人に委嘱等している。具体的な経営については、市に譲渡された後に検証が必要となることから、運営が開始されたところで、会計士等を委員として含めることを考えていく。

(会長)

費用対効果という視点も必要ではあるが、この場では費用のことは次の課題として、まずはいろんな意見を出していただきたい。

(委員)

よくあるのは、夏場はローラースケート場とするリンク。八ヶ岳スケートセンターは、リンクの内側に調整池があるが、フットサルコートやテニスコートとして活用できれば、帝京第三高校や八ヶ岳グランデなどは使いたいのではないか。ラジコンやドローンで遊べるでもいいし、イベントに使えるでもいい。夏場にどのように利用するのか、しっかりと考えることが大切。

(委員)

自然の中でスポーツができるということ、親子で触れ合うことのできる場所であること、スポーツを楽しむことができる場所であることが大切。標高も高いので、高地トレーニングや合宿での利用なども考えられる。いろいろな事業を検討することを考えれば、土地の所有者である小淵沢財産区の方にもメンバーになってもらうこともいいかもしれない。

(委員)

スケートリンクが使えるということが大前提であり、ハード面の整備が全然足りない。滑れないリンクでは意味がない。専門業者とよく相談したほうが良いのではないか。専門業者ともう一度しっかり協議して、優先順位を考え直して欲しい。氷の厚さをどうするのか、温度は何度に設定するのかなど、話を詰めているのか。

(委員)

専門業者にも確認し、優先順位をつけている。修繕の内容については、既に決定しており、冷凍機やエンジン部分の修繕については、近々入札になる段階である。情報共有を行いながら、修繕を進めていきたいと考えている。

(委員)

調整池の情報について、確認することが大切。そこにあることでケガをする人が出るかもしれないし、うまく調整できれば、利用しやすくなるかもしれない。

(事務局)

調整池の機能は残さざるを得ないことを確認している。フェンスで囲う等、どのように対処していくのかは、今後の検討となる。

(委員)

八戸ではボート遊びが出来たり、日光では空のプールのようになっていたりと、他のリンクでも調整池がリンク内にあるところもあるので、そういったところを視察するのもいいかもしれない。

(委員)

休憩所からアウトレットまでの間の松については、リンクに葉が落ちることから、氷の質が悪くなっていることから、伐採を検討したほうがいい。

(3) その他

8月下旬の平日に、軽井沢風越公園の視察を計画中（日程等は追って通知）

6. 閉会